

資料No.5-1

江田島市公共交通協議会
令和2年12月16日

令和2年度地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持事業）の事業評価について

令和2年度地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統確保維持事業）の事業評価を実施・報告するに当たり、協議会において構成員の意思を反映する必要があるため、次のとおり協議する。

1 計画の名称

江田島市地域内フィーダー系統確保維持計画

2 事業実施期間

令和元年10月1日から令和2年9月30日まで

3 事業評価の概要

平成22年10月から市内の交通空白不便地域の移動手段を確保する目的で運行している予約乗合型タクシー（おれんじ号）及び乗合タクシー「江田島北部朝夕便」の運行について、事業評価（自己評価）を行う。

運行系統	運行日等	便数/日	適合基準等	運行事業者
江田島北部朝夕便	毎日	5便	・補助対象地域間幹線バス系統への接続 ・過疎地域の運行	(株)江田島タクシー
おれんじ号 江田島北部線	月・水・金	4便		
おれんじ号 沖美北部線	月・水・金	4便	・過疎地域の運行	三高タクシー
おれんじ号 沖美南部線	月～土	4.5便	・補助対象地域間幹線バス系統への接続 ・過疎地域の運行	(有)能美タクシー

【主な記載事項】

- ・ 前回の事業評価結果の反映状況
- ・ 事業実施の適切性
- ・ 目標・効果達成状況
- ・ 事業の今後の改善点

4 事業評価様式

別紙(案)のとおり

5 その他

委員から提出された意見を反映させた上で、中国運輸局長に提出する。

※フィーダー系統とは

港やバス停などにおいて、地域間交通ネットワークと接続する系統で、乗り継ぎに適したダイヤ設定など、乗り継ぎの円滑化のための措置が講じられているものをいう。

「おれんじ号」及び「江田島北部朝夕便」は、港やバス停で船や路線バスとの接続を考慮したダイヤ編成を行っている。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年 12月16日

協議会名: 江田島市公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(株)江田島タクシー	江田島北部線(江田島町) 大須～切串～小用	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載し、フィーダー系統の利用方法などの周知を行った。 ・令和2年10月1日から稼働率向上のために、1日4便から5便に増便させるダイヤ改正を行った。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	【目標】 系統全体の収支率は14.6%で、目標15%には届かなかった。 稼働率目標である上下便のいずれかの稼働率50%(朝夕便は25%)に達しない便が4便あった。 ・江田島北部線 第3便 (上り)4.2% (下り)25.2% ・江田島北部朝夕便 第2便 (上り)1.1% (下り)0.3% 第5便 (上り)4.9% (下り)12.6% 第6便 (上り)0.0% (下り)6.0% ・沖美北部線・沖美南部線の全便とその他の便は、目標を達成している。 【効果】 地域内の通院や買物など、特に高齢者の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保された。 また、棧橋で広島行き航路と接続されていることにより、広島市への移動手段確保及び外出機会の創出につながった。	・江田島北部線、江田島北部朝夕便:稼働率が目標を下回る便を中心として、令和2年10月1日から市民の移動ニーズに対応したダイヤ改正を実施した。今後の稼働率の動向等を確認していく。 ・沖美北部線:新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、利用者数が減少した。運行地域住民に対し、利用促進のためのPRを実施し、利用者の更なる増加を目指す。 ・沖美南部線:災害による通行止めが解除されたことに伴い、利用者数は増加した。現在の運行を継続するとともに、必要に応じてサービス内容の改善を行い、より効果的な運行を図る。 ・フィーダー系統を利用したことがない人、特に利用の仕方が分からない人に、広報誌などを活用して、その仕組みや利用方法を分かりやすく説明し、利用者の増加につなげる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、出前講座の実施ができなかった。今後は、出前講座の取組を行い、宣伝・広報活動も兼ねて住民の声を取り入れ、より使いやすく、便利なものに改善する。
(株)江田島タクシー	江田島北部線(朝夕便) (江田島町) 大須～切串～小用	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載し、フィーダー系統の利用方法などの周知を行った。 ・令和2年10月1日から運行見直し基準(稼働率25%以内)となっていた第2便と第6便を減便した。また、第1便の終点を延伸させるなどのダイヤ改正を行った。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。		
三高タクシー	沖美北部線(沖美町・能美町) 美能～高田～中町	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載し、フィーダー系統の利用方法などの周知を行った。 ・令和2年10月1日から中町航路と路線バスの接続に配慮したダイヤ改正を行った。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。		
(株)能美タクシー	沖美南部線(沖美町・能美町) 三吉～是長～中町	・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載し、フィーダー系統の利用方法などの周知を行った。 ・令和2年10月1日から中町航路と路線バスに配慮したダイヤ改正を行った。	A ・事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。		

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年 12月16日

協議会名:	江田島市公共交通協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>江田島市は、広島県の南西部に位置し、面積は約100km²、人口は約24,300人の江田島・能美島とその周辺に点在する島々で構成されている。</p> <p>江田島市の公共交通は、市民の生活圏が広島市や呉市に及んでいることから、必然的に航路が基軸を担い、市内の主要拠点間の移動を路線バスが担っている。バスの路線体系については、路線一元化前の路線を引き継いでおり、幹線・枝線のメリハリが不明確であるなど、利用者の活動にマッチしていない部分もある。</p> <p>マイカーが無ければ移動に不便を生じる地域が多く存在しており、高齢者等によりマイカーを利用できない方を中心に、通院・買物等における移動手段確保のニーズが高まりつつある。このため、路線バスを補完する公共交通として、一部の交通空白地域にフィーダー系統(予約型乗合タクシー)を導入している。</p> <p>今後も引き続き、航路と路線バス、予約型乗合タクシーの連携を図り、棧橋や医療機関、商業施設など市民の移動ニーズに対応した、地域の「まとまり」と「つながり」を守る公共交通ネットワークの構築を進めている。</p>



令和2年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価

江田島市公共交通協議会

生活交通確保維持改善計画(地域内フィーダー系統)の概要

江田島市の概要

- ・平成16年11月に4町が合併
- ・人口 24,339人(平成27年度国勢調査)
- ・面積 100.74km²

協議会の構成員

広島県、江田島市、学識経験者、広島県旅客船協会、江田島バス株、広島県タクシー協会江能支部、利用者又は住民代表者、中国運輸局・広島運輸支局、江田島警察署

概 要

江田島市の公共交通は、市民の生活圏が広島市や呉市に及んでいることから、必然的に航路が基軸を担い、市内の主要拠点間の移動を路線バスが担っている。バスの路線体系については、路線一元化前の路線を引き継いでおり、幹線・枝線のメリハリが不明確であるなど、利用者の活動にマッチしていない部分もある。

マイカーが無ければ移動に不便を生じる地域が多く存在しており、高齢者等によりマイカーを利用できない方を中心に、通院・買物等における移動手段確保のニーズが高まりつつある。このため、路線バスを補完する公共交通として、一部の交通空白地域にフィーダー系統(予約型乗合タクシー)を導入している。

今後も引き続き、航路と路線バス、予約型乗合タクシーの連携を図り、棧橋や医療機関、商業施設など市民の移動ニーズに対応した、地域の「まとまり」と「つながり」を守る公共交通ネットワークの構築を進めている。

協議会の主な取り組み

- ・江田島市地域公共交通網形成計画の策定
- ・海上交通と陸上交通の連携強化
- ・路線バスやおれんじ号の利便性向上
- ・乗換環境の充実
- ・運賃負担感の軽減策の検討
- ・公共交通の利用促進と地域との意見交換会の開催など

協議会における検討

協議会の開催状況 6回開催

- ・第2回(12月19日) 江田島市乗合タクシー運行业務委託事業者の選定等について協議
- ・書面審議(12月27日) 地域内フィーダー系統確保維持改善事業の事業評価について協議
- ・第3回(3月16日) 江田島市公共交通協議会の令和2年度事業計画及び予算等について協議
- ・第1回(書面審議:6月3日) 地域内フィーダー系統確保維持改善事業の認定申請等について協議
- ・第2回(8月12日) おれんじ号(朝夕便を含む。)のダイヤ改正等について協議
- ・第3回(12月16日) 地域内フィーダー系統確保維持改善事業の事業評価等について協議

定量的な目標・効果

4系統【江田島北部線、江田島北部朝夕便、沖美北部線、沖美南部線】

(目標)・系統全体の収支率15%

・上下便のいずれかの稼働率が50%(大須朝夕便は25%)

(効果)当該路線を維持・確保することで、地域内の通院や買物など高齢者の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保される。また、棧橋で広島行き航路(フェリー・高速船)との接続により、広島市への移動手段の確保及び高齢者の外出機会の創出に繋がる。さらには、利用実態に応じた最低限必要な便数を確保する等により、限られた財源の中で運行を継続・維持していくことが可能となる。

昨年度の自己評価に対するフォローアップ

- ・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載し、フィーダー系統の利用方法などの周知を行った。
- ・令和2年10月1日から沖美北部線及び沖美南部線について、中町航路と路線バスの接続に配慮したダイヤ改正を行った。

昨年度の運輸局二次評価に対するフォローアップ

- ・市内の公共交通全般を網羅した「公共交通マップ」を改訂し、市民に全戸配付するとともに、棧橋待合所内等で配布した。
- ・令和2年10月1日から稼働率向上のために、江田島北部線及び江田島北部線(朝夕便)のダイヤ改正を行った。

実施した利用促進策

- ・運行区域に時刻表の配布を行った。
- ・港へのチラシ設置・掲示及びバス停への掲示を行った。
- ・ジャンボタクシー車両入替えのタイミングで、バリアフリーに対応した補助ステップ付き車両へと変更した。
- ・広報紙に公共交通の利用促進に関する連載記事を掲載し、フィーダー系統の利用方法などの周知を行った。

地域住民の意見の反映

- ・「江田島市地域公共交通網形成計画」の策定に当たり、地域住民へのアンケート調査を実施し(回収率 31.4%)、航路との接続改善を望む声が多かったことから、ダイヤ改正にこれを反映させた。
- ・これまでに開催した公共交通に関する出前講座の中で伺った、航路との接続や通院しやすいダイヤなどについての要望を、ダイヤ改正や区域変更等に反映させた。

事業実施の適切性

- ・江田島北部線、江田島北部朝夕便、沖美北部線、沖美南部線：
計画どおり実施されている。チラシ配布や地元自治会への利用呼びかけを行い、地元自治会や事業者を中心に利用促進・維持が図られており、地域にとって必要な移動手段となっている。

目標・効果達成状況

【目標】系統全体の収支率は14.6%で、目標15%には届かなかった。また、稼働率目標に達しない便が4便あった。(江田島北部線第3便(上)4.2%(下)25.2%、江田島北部朝夕便第2便(上)1.1%(下)0.3%、同第5便(上)4.9%(下)12.6%、同第6便(上)0.0%(下)6.0%)

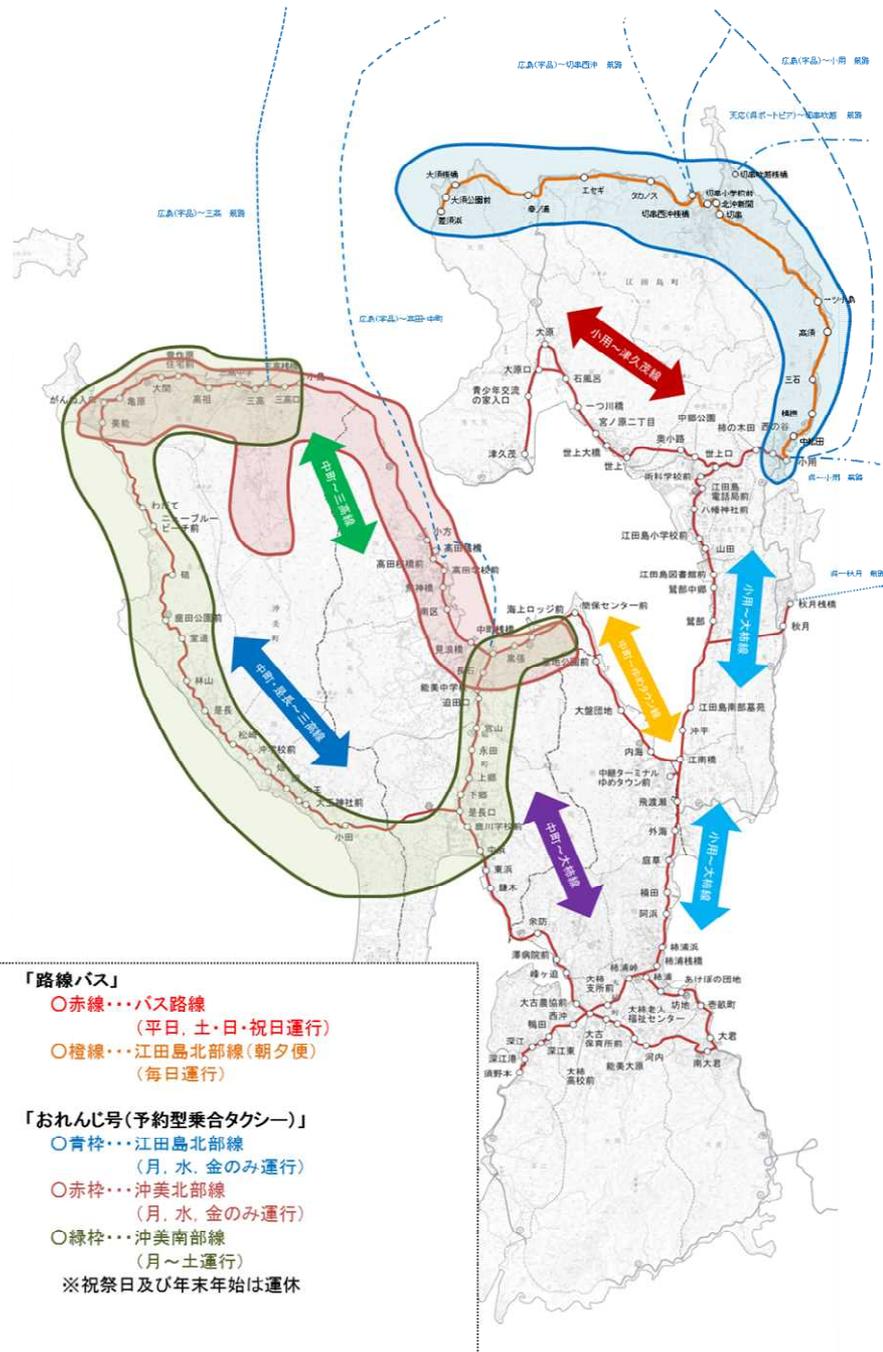
- ・沖美北部・南部線の全便とその他の便は目標を達成している。

【効果】地域内の通院や買物など特に高齢者の日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保された。また、棧橋で広島行き航路と接続されていることにより、広島市への移動手段確保及び特に高齢者の外出機会の創出に繋がった。

事業の 今後の改善点

- ・江田島北部線、江田島北部朝夕便：稼働率が目標を下回る便を中心として、令和2年10月1日から市民の移動ニーズに対応したダイヤ改正を実施した。今後の稼働率の動向等を確認していく。
- ・沖美北部線：新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、利用者数が減少した。運行地域住民に対し、利用促進のためのPRを実施し、利用者の更なる増加を目指す。
- ・沖美南部線：災害による通行止めが解除されたことに伴い、利用者数は増加した。現在の運行を継続するとともに、必要に応じてサービス内容の改善を行い、より効果的な運行を図る。
- ・フィーダー系統を利用したことがない人、特に利用の仕方が分からない人に、広報誌などを活用して、その仕組みや利用方法を分かりやすく説明し、利用者の増加につなげる。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、出前講座の実施ができなかった。今後は、出前講座の取組を行い、宣伝・広報活動も兼ねて住民の声を取り入れ、より使いやすく、便利なものに改善する。

交通体系図 別紙



運行系統図 別紙

系統名 江田島北部朝夕便
運行形態 路線定期型
運行日・便数 毎日運行・10便
運賃 1乗車につき200円(小学生以下及び障害者は半額)



運行系統図 別紙

系統名 沖美北部線
運行形態 区域デマンド型
運行日・便数 月・水・金曜日運行(祝祭日・年末年始12/29～1/3は運休)・8便
運賃 1乗車につき300円(小学生以下及び障害者は半額)

